



森下昌次

三俣地域振興対策について

一

般

質

問

質問

昭和41年に始まった清津川ダム建設計画も36年間という長い道のりを経てきたものの、平成14年7月には国の施策による公共事業の抑制という事から、あえなくダム建設調査中止という決断が下されました。

長い間、水没予定地区の住民は、建設賛否両論の渦中で翻弄されて来ました。

ダム建設調査中止後の国、県は地域の振興対策の支援をすと言っていたが、すでに3年7ヶ月が経過をしている現在、確たる地域整備構想が見えてきません。

このまま風化されては困るとの多くの声が聞こえてきます。

一日も早い実現のために町長としてのリーダーシップを発揮していただきたい。また、地域住民組織と具体的内容の検討をし、早期実現を目指すと言いが、いつ頃を目標としているのか。

町長答弁

地元協議会の要望項目を実施可能なもの、困難なもの、事業主体である国、県等に分類し、基本的合意項目の中で清津川護岸整備、国道17号線、道の駅、街なみの環境整備等の関連項目ごとに分類し、事業実施に向けて協議中です。

また、国、県には事業主体の内容の早期提示と、財源の支援を積極的に要望をして行きたい。

そして、町の主体事業には国より交付を受けている2億6千600万円の範囲以内で実施をして行きたいと考えている。

今冬の豪雪における町の除雪体制について

質問

今冬は12月からの連続の降雪により、災害救助法が適用される数十年ぶりの豪雪となり、町内いたる所で、消雪水の濁水や各家の排雪で道路巾員

町長答弁

の確保に大変苦勞をされた事と思います。そのために除雪体制や消雪パイプの管理はどのようにされたか、また、歩道除雪のできなかつた地域では、学童への歩行についての対策はどのようであったか。

今冬も除雪計画に基づいて実施をしてきました



1月4日 大雪の温泉街どおり

が、豪雪により消雪水の不足した20数ヶ所区間については機械除雪で対応した。

また、屋根雪除雪等で道路巾員のせまい所は市員確保のため、穴沢やノリタ工学跡地を排雪場所に指定して対応してきた。そして12月から2月まで毎日2名の職員を待機させ、道路の安全確保につとめてきた。